

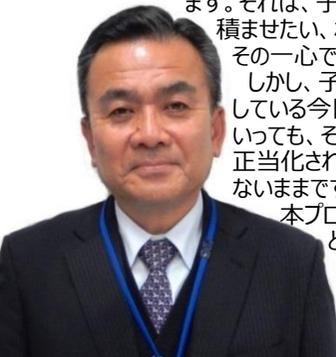


学校改革！教員の時間創造プロジェクト取組案提示

2018.1.29

時間創造プロジェクト事務局

橋爪学校教育部長メッセージ



先生方は、部活動指導をはじめ、毎日、遅くまで教材研究をしたり生徒指導をしたり、土日に学校に出かけて、やり残した仕事を片付けたりしています。それは、子ども達のために、できるだけ経験を積ませたい、わかりやすい授業をいかに作るか、その一心で職務に没頭してきたのです。

しかし、子どもたちを取り巻く環境が多様化している今日では、先生方の仕事が増えているにもかかわらず、それをこなしていくことがいつのまにか正当化され、長時間労働の問題は解決できないままです。

本プロジェクトでは、改善の推進の前提として、たとえ子どもたちのためであっても、どれほどやりがいがあっても、長時間労働を前提とした働き方は改善するという考えで議論しており、「負担」も「負担感」も軽減

するべきだと考えています。

そのためには、教育委員会の責任のもと、前例踏襲や形式主義に陥ることなく、真に必要なことに取り組みを明確に打ち出し、市民や保護者をはじめ社会から理解される環境をつくっていく必要があります。

これまで慣習的に学校や教員が担ってきた業務についても、真に学校や教員が担うべきなのかを精査し学校・教員以外に積極的に移行していくという視点に立って検討をしていきます。

学校現場においても、校長のリーダーシップのもと、業務改善を学校経営の柱の一つとして位置づけ、着実に取り組む必要があります。それと最後に、先生方に根付いている、子どものためならとことんやるという美徳や価値観にも一石を投じないと、学校総体としての取り組みは成し遂げられないと考えています。

第3回会議報告（意見交換内容）

平成29年12月26日（火）、第3回プロジェクト会議を開催しました。各取組毎の主な意見交換の内容は以下のとおりです。

【留守番応答電話の設置】

・学校は、保護者に教員個人の携帯番号を知らせるべきではない。学校が留守番応答電話での対応時間中に、保護者から教員や管理職個人の携帯に直接電話がかかってこないよう緊急連絡体制を整備するべき。

【学校徴収金】

・給食費の公会計化とあわせて学校徴収金システムを検討したい。
・給食費はじめ学校徴収金について、教員が一切関わらなくてもよい体制づくりを推進することが教員の負担軽減につながる。

【運動部活動】

・中学校の部活動について、現場はかなり限界にきている。早く対応していきたい。委嘱した外部指導員の単独指導、単独引率など外部コーチの権限を強化することが必要。
・休養日を増やす方法にはいかないのか。

【事務機能の強化】

・複数校の財務・会計処理が可能な共同学校事務室の設置も視野に、職員室から事務室への事務の移管ができないか協議を行う。

※上記の他にも、大変貴重なご意見をいただきました。

【管理職マネジメント】

・研修で話を聞くだけでなく、外部専門家を学校に直

プロジェクト進捗状況

第3回プロジェクト会議（12.26）

◆第2回会議までのご意見を踏まえ、教育委員会事務局案を提示し、各取組毎に部会を設け意見交換を行った。

<各取組の方向性>

○留守番応答電話の設置

H31年1月導入。

○運動部活動

部活動指導員導入へ向け他都市調査中。

○マネジメント研修

H30年度実施。管理職として必要な資質・能力の指標を設定。研修対象者の拡充。

○学校閉庁日の設定

H30年度実施。8月13日～15日の3日間。

○事務機能の強化

H30年度試行。モデル校を指定し研究を行う。

○教員の事務補助スタッフの配置

H30年度試行。再任用短時間勤務の教諭を配置し取組の効果を検証。



事務局内協議（1.19）

◆メンバーからの追加提案に対して、プロジェクトで取組める事項がないか教育委員会事務局内で協議を行った。

◆メンバーからの追加提案

- ・部活動指導員の導入、外部コーチの権限強化
- ・随時訪問の見直し
- ・学びノート教室サポーターの確保
- ・外国語活動に関する負担軽減
- ・文書ルールの作成 などについて

時間創造のタネ募集

教員の長時間勤務の実態改善及び子どもと向き合う時間の確保のための取組のアイデアを募集します。

■提案方法① [全庁共用](#) > [Cネット関連情報](#) > [受取箱リンク集](#) > [教育委員会事務局](#) > [教育総務部](#) > [教育政策課受取箱](#) > [★★「時間創造のタネ」](#)に直接入力。

※ c ネットからは右クリックで入力画面にリンクします。

■提案方法② 校務支援システムグループウェア内のアンケートシステムで意見照会。

■提案の取扱

提案されたアイデアは、その実現へ向け『学校改革！教員の時間創造プログラム（仮）』に盛り込めるよう積極的に検討していきます。

■学校現場から、先生方の長時間労働の実態改善に向けた取組をぜひご提案ください。（教育長談）

※実施プログラム（案）策定のスケジュールの関係上、ご提案は2月16日（金）までをお願いします。

メンバー紹介

プロジェクトに参加し、一人一人の子どもたちを大切に育てていくためには、自分の働き方を見直し、自分自身も大切にしていかなければならないと強く感じています。また、働き方改革を学校現場に浸透させることは、教師が、心身ともに健康を維持し、本来担うべき業務に専念できる大きな活力になると思います。 慶徳小学校 教諭 才所 尚子



時は来た！教員の負担があまりにも大きい今、本プロジェクトは千載一遇のチャンス。中学校では、部活動は負担が大きい教育的効果も大きく大切なもの。顧問のやる気を損なわず、しかし負担を確実に減らせる手立てを打つべし。そのためには教職員同士助け合う職場づくりが求められる。 白川中学校 校長 桃崎 剛寿

